

土砂災害から命を守る

岩沼市立岩沼西小学校 五年 菅野 結優

ここ何年か前から、たくさん
の地いきで土砂災害が起きて
います。土砂災害とは、大雨
や地震などが引き金となっ
て、山やがけがくずれたり、
水と混じり合った土や石が川
から流れ出たり、火山のふん
火などによって、と
うとい命や財産がおどかさ
れる自然災害です。主なもの
として、「土石流災害」「地すべ
り災害」「がけくずれ災害」
「火山災害」と

いうものがあるそうです。
「土石流災害」とは、大雨が
きつかけとなり、谷や斜面に
たまった土砂が、雨による水
と一緒に流れ出して起こる災
害で、流れの急な河川やせん
状地などで発生することが多
いのが特徴です。
「地すべり災害」とは、ひか
くのゆるがちな斜面において、
地中のねん土そうなどのすべ
りやすさや、そうが地下水な
どの影きようでゆっくりと動
く出す現象で、広いは人用

たつて起こるのが特ちようで、家や田畑、道路などの交通もうなどが一度にひ害を受けてしまします。

「**かけくずれ災害**」とは、地面にしみこんだ水分で土のていこう力が弱くなり、弱くなつたし^ヤ面がとつ然くずれ落ちる、急なし^ヤ面で発生する災害です。とつ発的に起こり、速いスピードです。

「**火山災害**」とは、主にふん火など火山の活動によつて発生するよう岩流、火砕流、火山ふん出流、火山泥流などによつて、人の命や家などの財産がおどかされる災害です。

今年の夏も、広島県、宮崎県、福岡県、長野県、長崎県、愛媛県、島根県、熊本県などの、多くの県で大雨が続いて土砂災害が発生しています。

その雨の原因は、「**線状降水帯**」という前線がえいきようしているみたいです。

「**線状降水帯**」とは、次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した

た積乱雲群によって、数時間におたつてほぼ同じ場所を通過または、ていたいすることで作りに出される、線状に伸びる長さ五十から三百キロメートルでい度、はば二十から五十キロメートルでい度の強い降水をもなう雨いきのことです。

日本でこの「線状降水帯」という用語が使われるようになったのは、平成二十六年八月のごう雨による広島市の土砂災害からだろうです。

現在も、大雨によって広い地いきで大雨特別けい報や土砂災害などでひなん指示が出ていたりしています。気象庁が

「最大級のけいがいが必要です。直ちに安全を確保してください。」と呼びかけています。

大雨が降ることやそのために土砂災害が起きてしまうことは、自然現象で自然災害なので、いっどこでどのようにして起きてしまうかわからなくともこわいですが、一番大

切な事は一人一人が自分の命を守るために
全なところにはひな人をする事が大切なのか
なと思います。